

参考資料

1. 人口の推移～近年の傾向と将来推計
2. 10年後の施設配置
3. 用語の意味

参考資料1

人口の推移～近年の傾向と将来推計

■近年は微増ながら23区で増加率最下位

平成12(2000)年～平成17(2005)年は、都心回帰の流れが顕著であり、23区全体が増加傾向にある中(4.3%増)で、中野区は0.4%の微増で伸び率は23区中最下位でした。人口増加率が低いのは、密集市街地で土地利用としては余裕がないことに加えて、新たな住宅供給が行われなかったためと考えられます。

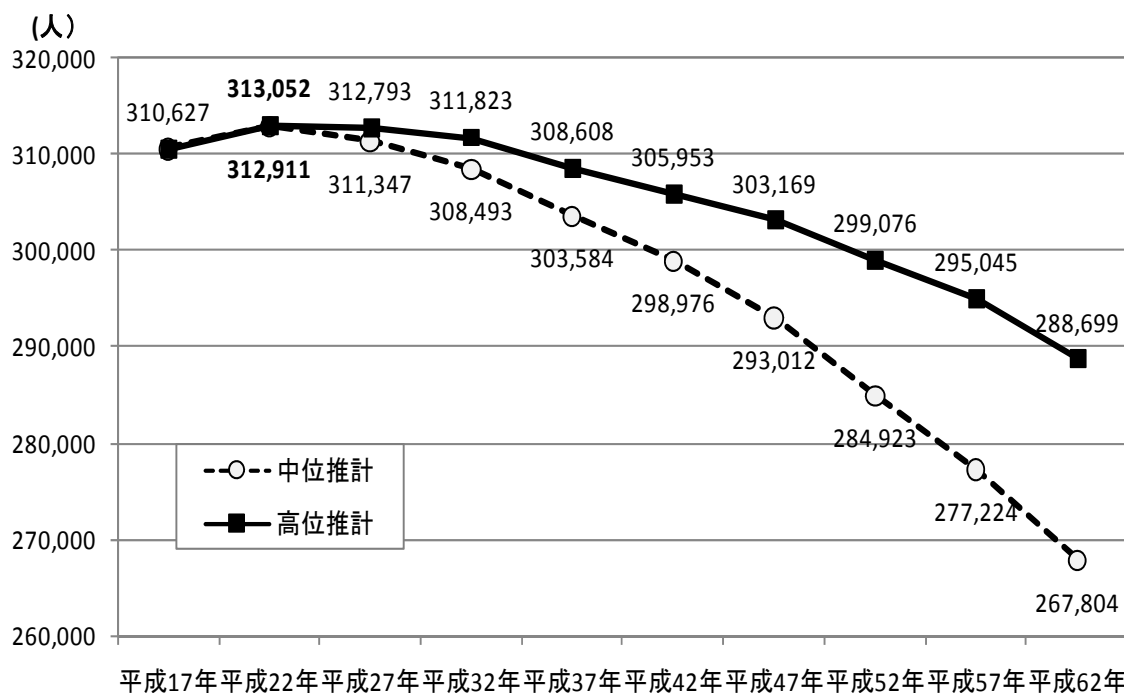
■今後は平成22(2010)年をピークに減少

将来人口推計については、過去の出生率の動向に基づいた「中位推計」と、近年の出生率の上昇傾向をとらえ、今後出生率が東京都全体並みに上昇するとした「高位推計」の二つの推計を行っています<sup>1</sup>。

若年人口の流入が比較的大きい中野区ですが、全国的な人口減少を背景に、今後ゆるやかに人口は減少してくと想定され、区としては、この高位推計の維持に向け施策の展開を図っていきます。

【図1】中野区将来推計人口の推移

2005年は実績値



平成17(2005)年の国勢調査結果に基づく実績値及び推計値

<sup>1</sup> 推計方法は、コーホート・シェア延長法によります。同法は、ある地域における男女別・年齢別人口の全国に対する割合を推計期間ごとに設定し、全国将来人口推計の結果に基づき推計する方法で、長期の推計に向いているといわれています。

参考資料

人口の推移

本計画策定の10年後以降となる平成32(2020)年においては、年齢3区分別でみると、0歳から14歳までの年少人口は微増となる見込です。これは、近年僅かながら出生率が高くなっていることが反映されているためです。一方、65歳以上の老年人口は増加し、構成比も高くなります。高齢化は一層進展していくことが予測されます。

また、15歳から64歳までの生産年齢人口は減少し、構成比も低くなっていくと予想されます。

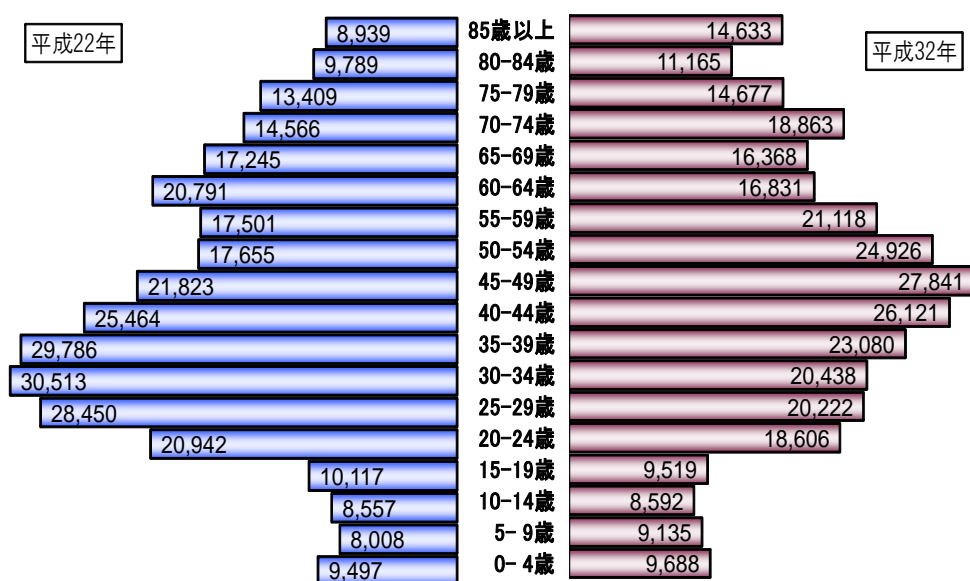
【表1】中野区将来人口推計 年別比較(高位推計による)

※構成比は小数点第2位以下四捨五入

区 分	平成22年		平成32年		増減	
	人口	構成比	人口	構成比	人口	増減率
総 計	313,052人	100.0%	311,823人	100.0%	△1,229人	△0.4%
0歳～14歳 (年少人口)	26,062人	8.3%	27,415人	8.8%	1,353人	5.2%
うち0～9歳	17,505人	5.6%	18,823人	6.0%	1,318人	7.5%
うち10～14歳	8,557人	2.7%	8,592人	2.8%	35人	0.4%
15歳～64歳 (生産年齢人口)	223,042人	71.2%	208,702人	66.9%	△14,340人	△6.4%
うち15～29歳	59,509人	19.0%	48,347人	15.5%	△11,162人	△18.8%
うち30～49歳	107,586人	34.4%	97,480人	31.3%	△10,106人	△9.4%
うち50～64歳	55,947人	17.9%	62,875人	20.2%	6,928人	12.4%
65歳以上 (老年人口)	63,948人	20.4%	75,706人	24.3%	11,758人	18.4%
うち65～74歳	31,811人	10.2%	35,231人	11.3%	3,420人	10.8%
うち75歳以上	32,137人	10.3%	40,475人	13.0%	8,338人	25.9%

平成17(2005)年の国勢調査結果に基づく推計値

【図2】中野区将来人口推計 5歳区分別・年別比較(高位推計による)



平成17(2005)年の国勢調査結果に基づく推計値

■外国人登録者数は増加傾向

区内の外国人登録者数の過去の推移は、表2のとおりです。平成10(1998)年頃から増加が続き、平成17(2005)年に一旦減少しましたが、平成18年(2006)から再び増加しています。国際化が一層進展する中で、日本全国の外国人労働者数が右肩上がりであることを考えると、中野区の外国人登録者数は増加していくことが予測されます。

【表2】中野区外国人登録者数の推移

いずれも各年1月1日現在の数値

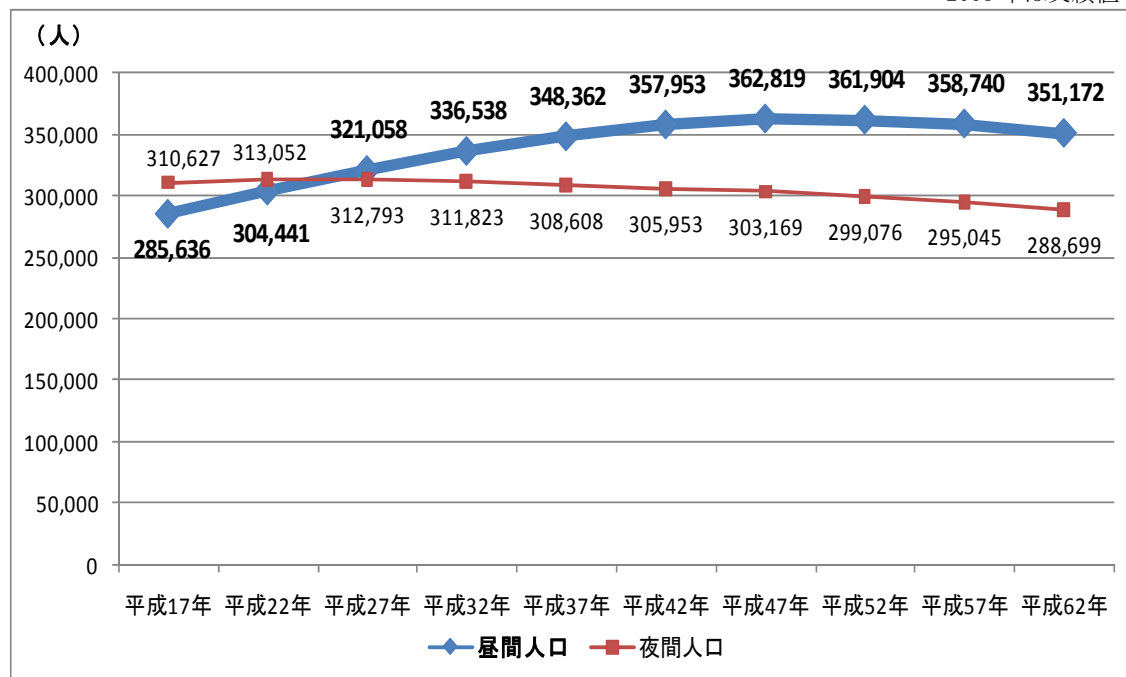
平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
10,912 人	11,210 人	11,322 人	11,484 人	10,587 人
平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
10,658 人	10,793 人	11,040 人	11,656 人	12,185 人

■昼間人口は増加を予測

平成17(2005)年時点では、中野区で昼間人口(中野区で就業・就学している人口)は夜間人口を下回っており、「住宅都市」としての顔がうかがえます。しかし、今後は中野駅周辺の整備などにより就業者・就学者が増加することが見込まれ、平成27(2015)年には昼間人口が夜間人口を上回ることが予測されます。

【図3】中野区将来昼間人口・夜間人口の推移

2005 年は実績値



平成 17(2005)年国勢調査結果に基づく実績値もしくは推計値